

2023年度 群馬大学共同教育学部
学校推薦型選抜・帰国生選抜問題

社会専攻

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
- 2 問題冊子は1冊（問題は2ページ）、解答用紙は1枚、下書用紙は1枚です。
落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所があった場合には申し出てください。
- 3 受験番号と氏名は解答用紙の所定の欄に必ず記入してください。
- 4 解答は指定の解答用紙に記入してください。
- 5 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 6 問題用紙と下書用紙は持ち帰ってください。

社会専攻 小論文

次の文章を読んで、以下の問に答えなさい。

(1) AIのバイアスをめぐる議論が世界的に盛んになりつつある。バイアス、すなわち偏見や差別のことだ。

周知の通り、AIは膨大なデータを学習することによって、判断を下すことができるようになる。人間は現実の世界の中で学ぶが、AIにとっては与えられたデータがすべてだ。データに偏りがあれば、偏った判断を下すAIになってしまう。結果として、人間の社会に含まれる偏見が、写し鏡のように、AIに移行してしまうことがある。

*

たとえば2018年には、米アマゾン社が採用試験を自動化するために開発したAIにバイアスがあったことが明らかになった。このAIは、過去10年間の採用実績にもとづき、応募者の履歴書を1～5個の星の数でランクづけする。ところが実際に動かしてみると、「女子大学」「女子チェスクラブ部長」など「Woman」という言葉が入っている履歴書を低く評価する傾向が明らかになったのだ。アマゾンは全社員のうち約6割が男性だ。このジェンダーバランスに倣ったために、女性を差別する採用システムができあがってしまったのである。

採用試験にAIを用いる動きは、アマゾン以外にも広がっている。たとえば、複数の米大手企業が、ビデオを用いた面接を導入している。応募者は実際に人事担当者に会うことなく、パソコンのモニター越しに与えられた質問に答えていく。その様子は映像に撮られ、AIがそれを分析する。しゃべり方や声のトーン、表情の変化などから、次の面接に進むべき人物をリコメンドするのだ。このシステムが、まひや吃音(きつおん)の当事者など、流暢(りゅうちょう)な発語が難しい応募者をあらかじめ排除するものであることは言うまでもない。

こうしたバイアスをなくすために、学習に用いるデータに多様性をもたせ、偏りがないようにすることは重要だろう。人種、ジェンダー、障害の有無等、さまざまな人間がいることをAIに知ってもらい、「人間」なるものの定義を精緻(せいち)化していくのだ。アメリカでは、AI製造元の責任を問う動きもある。

*

しかし、だ。(2)実はここにこそ重大な罣(わな)があるのではないか。そもそも私たちは、有限個の特徴の束によって記述し尽くせるような存在ではないはずだ。現実とそれについての記述はイコールではない。生きているということは、パラメータに還元できない、その人だけの世界を持っているということだ。そのことを忘れて現実と記述を同一視してしまうと、多様性を目指していたはずが、人間をステレオタイプに固定してしまうことになる。

2018年にアメリカで自動運転テストカーが、歩行者を死亡させる事故が起きた。その車に搭載されていたシステムが、横断歩道のない場所で道を渡る人がいることを、想定していなかったのである。そう、人間とは、横断歩道がなくなると道渡るような自由な存在なのだ。

いや、他方で違う未来も見える気がする。それは、AIが想定する定義に合わせて、人間が横断歩道以外の場所では絶対に道を渡らなくなる未来だ。パソコンしかり、スマホしかり、新しいテクノロジーが登場すると、人間はむしろ自分の方をそれに合わせて作り変えてしまう傾向がある。AIそのものを否定するつもりはない。だがそこに潜むバイアスに、私たちは十分注意する必要がある。なぜならその本当の意味は、AIが人間を機械のようなものだと思下し、そして実際に人間が機械のようになっていくことにあるのだから。

出典：伊藤亜紗「思考のプリズム」2020年1月15日、朝日新聞

(出題の都合上、一部表記・表現を改めた。)

問1 下線部(1)(2)に着目して、著者の主張を要約しなさい。(400字程度)

問2 AIそのものを否定せず、しかしその「重大な罣」に陥らないためには、私たちはどのように未来を切り開いてゆけばよいのだろうか。あなたの考えを述べなさい。

(400字程度)